

若い目

国の対策が不十分

福山高2年

中村 彩乃

授業で「男女共同参画社会」について学習した。そ

の中で、ある記事について深く考えさせられた。記事のタイトルは「保育園落ちた 日本死ね」という衝撃的なものだった。

読み進めていくと、共感できる内容があった。日本の社会で少子化とその影響

が問題視される一方、子育てに対する国全体の理解が進んでいないこと。女性の社会進出をさらに進めていくための、国の対策が十分でないことである。

保育施設の数が不十分なため、保育園に入園できない子どもが数多くいる。待機児童問題である。そのため女性が出産後、育児をしながら働きたくても、子どもを預ける場がなく、働けない状況にある。

施設設備の充実や人員の確保、そのための予算措置など、早急な対応が必要である。男性が安心して育児休暇を取得できる環境をつくっていくことも必要である。国全体の理解がより一層深まることが望ましい。

国民を代表して政治に携わる人々には、この問題にしっかりと向き合っ解決を図ってほしい。

(霧島市)